

講義名	経営管理論A		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	長田 貴仁		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 5時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科/2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2018年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>
<p>主題：組織の運営管理を学ぶ。  概要：経営管理論は組織の管理運営を考える学問である。本講義では、「経営管理論の全体像」「内部組織のマネジメント」「外部環境のマネジメント」「日本企業のマネジメント」という順序で理論を解説していく。ただし、理論のための理論の企業では終わらない。常に現実のビジネスに言及しながら授業を進める。</p>

<b>到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学の主要領域である「経営管理論」の基礎知識を身に付けられる。</li> <li>2. 就活、そして就職後も役立つ実践的理論を習得できる。</li> </ol>

<b>提出課題</b>
適宜指示する。

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
Q&Aタイムを設け、質疑応答する。

<b>評価の基準</b>
<p>期末テスト60%、講義内で求める提出物20%、講義時における姿勢20%。  本講義は、現代ビジネス社会の評価基準である「信賞必罰」を適用する。  良い結果を出した人は高く評価する。本講義開始後に守らない場合は、「契約違反」として処する。  「現代ビジネスの基本」は契約である。履修登録した段階で、以下の契約内容に同意したことになる。  1. 「ネア力 のひのひ へこたれず」の精神を体現し、組織（クラス）のモチベーションを高める前向きな姿勢を見せた人は努力点として加点する。  2. 他の科目と同様、出席は当たり前。無断欠席は大幅減点。欠席する場合は証明書類（例：公欠届、医師の診断書か病院の領収書写し、など）を提出せよ。  3. 居眠り、私語など、組織（クラス）を落とす迷惑行為、業務（授業）を妨害する行動、発言については、始末書の提出を求める場合がある。その結果生じたで、大幅減点になることを認識し「大人としての行動」を心掛けて欲しい。</p>

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として、1回につき、1章分の内容を講義する。テキストの予習、復習を欠かさないこと。ただ座り、ポーと聞いているという態度は譲んで欲しい。講義中はノートに記す作業を怠らないこと。</li> <li>2. 毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「日経ビジネス」、「東洋経済」、「ダイヤモンド」、「プレジデント」、「エコノミスト」などのビジネス誌も定期的に目を通しておき、常に「情報武装」しておくことが望ましい。</li> <li>3. テーマを決め、それに関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。</li> </ol>

<b>教科書</b>
<p>・経営管理論 上野恭裕、馬場大治 中央経済社 2,400円 978-4-502-19061-2</p>

<b>プリント資料及び参考文献</b>
適宜配布する。

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「経営管理論」とは何か</li> <li>2. そもそも「企業」とはどのような存在か</li> <li>3. 良く耳にする「マネジメント」が重要な理由</li> <li>4. 皆 「組織」と関わることになるのだが</li> <li>5. 「モチベーション」の上げ方を教えます</li> <li>6. 「リーダー」にならなければ生き残れない</li> <li>7. 組織を「形」から考える</li> <li>8. 会社選びで気になる「社風」から考える組織</li> <li>9. 組織は環境に適応すべし・・・当たり前の話だが</li> <li>10. 「経営戦略」を学べば、人生もうまくいく</li> <li>11. 企業は毎日が競争</li> <li>12. 「イノベーション」を説明できるか</li> <li>13. 「日本の経営は終わった」と言われるが</li> <li>14. "Made in Japan"が生れた背景</li> <li>15. 「株主重視経営」で起こった変化</li> </ol>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p><input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<p>予習：1時間＝テキストをどどん読み進めること。  復習：1時間＝講義中にメモした内容とテキストの内容を合体させ、「自分ノート」に記し、編集すること。  毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。</p>

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>

<b>実務経験の有無及び活用</b>
実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。

<b>備考</b>
<p>ビジネス誌「プレジデント」編集部を経て、2005年4月、神戸大学大学院経営学研究科助（准）教授に就任したのを皮切りに大学の世界に入りました。その後、複数の大学、大学院で一般学生だけでなく、社会人も教えてきました。その中には現役社長も数名いらっしゃいました。これまで、ニューヨーク駐在の他、世界各国で多くの企業エグゼクティブ取材してきました。経営学とビジネス・ジャーナリズムを統合した視座から論考したオピニオンを、学界（学会）に留まらず広く社会に向けて、分かり易い言葉で発信し続けています。ジャーナリズムを知る経営学者、経営学を知るジャーナリストです。現在も、新聞、ビジネス誌などを中心に、執筆し、コメントを発信しています。私の最大の特徴は、実際に戦後の日本経済の成長を支えた日本を代表する経営者たちと実際に対話してきたことです。そこから得た知見を生かし、「生きた</p>